

ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌

2020

Take free!

なほ

5月号

vol. 159

特集

ずんずん

⑩ 大規模プロジェクトのそばで

「人間ではありません」
鶴見橋3丁目付近にて撮影

2018年1月からゆ〜とあいは居住支援法人のなかま入り。まちの人の相談の中で「このまちの公営住宅や古い木造住宅をもっと活かさなきゃ。」そんな気持ちがふつつつあふれてくる。ヒントを探しにいろんなところへ、いろんなひとに。

ゆ〜とあひ

⑩ 大規模プロジェクトのそばで



揺さぶられる地域

「東京ドーム1個分の土地を17億円で買いませんか？自由に使えますよ。」

昨年2月28日、大阪市は東住吉区矢田南部の公共施設を含む市有地約1万坪(35318㎡)の売却先を公募した。東京ドーム1個分ほどの土地の予定価格は17億円弱。まちづくりの提案十価格の公募型プロポーザルで事業者を募集したものの応募は1事業者で、結局その事業者も辞退することになった。

当社は16棟570戸ほどの公営住宅が集中する地域だが、1970年代から建設された様々な公共施設は2000年代に入ると次々と供用廃止された。売却対象となったのは、老朽化した公営住宅や青少年会館、ゆとり健康創造館(フスバ)など6施設。そして地域の憩いの場である、矢田教育の森公園も対象に含まれた。ただし、公園は敷地内で移動させてもよいとさ

れた。南の玄関口としての「周辺住環境との調和がとれつつ、新たなにぎわいと活力を創出できる空間」を将来像とし、魅力を向上させ、にぎわいを創出し、交流を促進するまちづくり」という大阪市の目論見はふりだしに戻った。

その矢田南部を拠点に「共生社会の実現」と「人権・福祉・住民自治の具現化」を目指し、2005年6月に設立された、NPO共生と自立のまちづくり・ふれあい。がこの4月から新しい取り組みをスタートさせる。事務局長の袈裟丸朝子さんにお話をうかがった。

教育のまちに育てられた

西田 今回のまちづくり公募については、どう受け止められていますか。

袈裟丸 複雑な心境です。生まれ育った公営住宅も売却対象です。それ以外の施設も小さいときからの思い出がたくさんつまっています。1日で6000人が集まった矢田のまつりや

教育の森公園での8・9キャンプ、青少年会館や解放塾、屋台を引いてやってくるチリンチリンのうどん屋さんなど、土地にまつわる記憶が多すぎた。

西田 住民や地域の「想い」がたくさん詰まった場所ですね。

袈裟丸 たしかに、「未利用地となっているため、地域全体のにぎわいは喪失し、将来的に防犯・防災力への影響も懸念」という大阪市の考えには同意します。とは言っても、1万坪で



矢田教育の森公園





共通する課題で盛り上がる

17億円と言われたら自分達でどうにかなる話じゃない。自分達の地域のことなのに、大企業しか太刀打ちできない遠いところのような話に思えて、リアルじゃなかった。民間事業者は「矢田南部地域まちづくりビジョン」を踏まえた提案を求められていたけど、アリバイづくりのようにな…

西田 地域の声が反映されなかった？
袈裟丸 いえ、区役所がまとめた「まちづくりビジョン」はこちらの声を反映してくれている部分もありました。

区のうちこちでいるんな世代と話す機会に恵まれ、ないなら一緒につくろう。とする人に多く出会えました。

西田 なるほど。では、このたび始める新しいプランを教えてください
袈裟丸 2つの縁があります。1つが東住吉矢田人権協会のバックアップもあって、地域に思いのある有志から私邸を活用しないかという打診があったこと。今は空家ですが、手入れが行き届き大規模改修をしなくても使えそうな古民家です。立地もちょうど地域のおへソみたいところで、地域の潤滑油になれないかなあと…

もう1つが、休眠預金を活用した助成金(ひとまち・げんぎ助成)をヒューファイナンスおおさかが公募していたこと。しかも「公営住宅及び公営住宅等を含む地域で高齢者や低所得者等の方々が孤立しない、互助・共助の地域づくりに取り組んでいる地域」の活動が対象で、まさに矢田の特徴と合致していました。ありがたいことに、空家

そしてある企業が地域とタッグを組んで立候補したいと申し出てくれました。しかしシミュレーションすると経営的に厳しくて、応募は見送られることになりました。

西田 かつては地域と行政が協力してまちづくりを進めてきましたね。

袈裟丸 運動でいろんなものを獲得してきた経験が地域にはあります。環境改善を目的に住宅や施設が建設されました。旧矢田小学校(現東住吉特別支援学校)の校舎は、先生や保護者、大阪市などの関係者が最高の学びの環境をつくること、上空から見ると日本列島を模した校舎をつくったり、1㎡という面積を実感できるよう一辺100cmの窓が設置されたりしました。また、今では当たり前の小中学校の教科書無償化の実現にむけて率先していたのは矢田でした。しかしそれも、分配できる財を行政が持っていた時代の話です。

西田 矢田地域は、教育のまち」と聞

を活用して孤立を予防する提案が助成対象に選ばれて、この4月から新しいプランはスタートしました。

西田 古民家の使い方をもう少し具体的に教えてください。

袈裟丸 居場所と出番をつくりたい。決めているのはこれだけです。「もうちょっと具体的に」という意見はヒューファイナンスからもありました。でも、プランを固めて地域の住民をお客さん扱いで迎え入れる取り組みにはしたく

いています。
袈裟丸 そうです。「教育のまち」を掲げてきたのが大きな特徴です。先輩のおかげで、私たちの世代は当たり前前にその成果を受け入れていました。保育所も子ども会も青少年会館もあって、地域に育ててもらいました。でも、その成果もどんどん見えにくくなっている、危機感を持っています。

古民家を拠点にした活動

西田 時代の変化とともに運動の在り方も変わってきていますね。

袈裟丸 自分たちでやっていくことと、地域立の社会福祉法人やNPOを設立し、地域拠点のゆうあいセンターも2007年に自前で建設して、いつまでも行政に頼らないソフトランディングを目指していました。ただ、ゼロからつくりあげてきた世代とあったものを失う世代では、地域への想いに温度差が出てしまいます。私は去年の大阪市議選に立候補したのですが、東住吉

ない。「何があったらええ?」「こんなんでできるんちゃう?」といったプロセスを共有しながら、一緒につくっていかたい。

17億円と比べると、ほんとに微々たる予算で小さな取り組みかもしれないけど、もう一度みんなの声を集めるきっかけにしたい。

西田 新たな運動のきっかけになればいいですね。

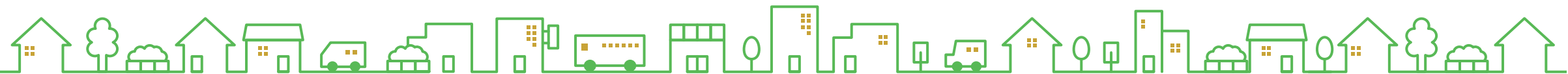
袈裟丸 そうですね。たとえばDIYをやってみよう、ワークショップをやってみようと思っても、スキルが足りないし、一緒にやってくれるメンバー探しからです。たくさんの方の力添えが必要で、地域内外に声をかけまくってやっていきたいです。

このまちにあるいろんな資源がつかって、まちをつくっていく。誰かではなく、みんながやっていく。そんな夢を描いて、まずははじめてみます。

文責・西田吉志・田岡秀朋



新たな活動拠点となる私邸





1970年 三島事件 1

1970年代という時間は、私にとって記号的、暗示的意味のある特別な歴史だったと記憶する。みずからの無知を知らされ、社会への関心を強いられ、なによりもみずからに微塵の力もないことを知らされた“時たち”の連続であったからだ。70年代という時が変幻し、遙かな遠い現在のこの地に漂着してしまった今、ごく私的なその記憶の断片をかき集め、私がいた70年代を確認してみたいと考えた。

くらし応援室／楽塾：佐々木敏明

トランジスタラジオ

私が勤務していたO社デザイナー制作室の机の端に、小さなトランジスタラジオがあった。日本橋の電気店で中古購入したものだ。まだスマホもウォークマンの姿すらない70年代の身近なスピーカーがトランジスタだった。携帯に便利で、海水浴場・ハイキング・散歩などレジャー用品として大いに活用されていた。

1973年、江崎玲於奈氏がノーベル物理学賞を得て半導体素子が話題となり、60〜70年代にその半導体であるトランジスタがラジオに導入され、消費電力の低減、小型で軽量、携帯化によって、従来の家庭内ラジオから解放されたスピーカー商品だ。昨年12月にリチウムイオン電池を開発した吉野氏が、ノーベル化学賞を受賞したこともまたニュースだが、私たちの生活に対する便利さへの希求は、もう歩を緩められない場に達し、小学生た

ちが使う日常語に“進化”という言葉が頻繁に飛び交う。

アルマ・コーガン(邦楽歌手では森山加代子)が唄う「ポケット・トランジスタ」(61年)や、RCサクセクションが唄った「トランジスタラジオ」(80)など、歌曲名にもなり、つまりは一世風靡の商品であった。

このトランジスタラジオこそは、70・11・25を、それまでの歳月を凌駕するほど衝撃的な1日として私に記憶せしめた道具であった。当時FM放送が開局されて間がなく、民放のラジオ局でさえCMなしで、終日ほぼ音楽番組を楽しめる環境にあり、70年11月25日のこの時もロックが鳴っていた。放送が突然中断し臨時ニュースが乱入した。「先ほど、作家の三島由紀夫ほか『楯の会』のメンバーら5名が、自衛隊市谷駐屯地内に乱入し自決しました」。アナウンサーの声が何度も番組を中断させ、三島自決のニュースが挿入されたのである。デザイナー

ン室がどよめいた。

私は高校生のころ演劇部員で三島の戯曲を読んでいた。文化祭では『喜びの琴』(63)をやりたいと言って主導教師に反対されたことがある。三島は当時、新劇「文学座」の座付の存在だったが、三島の戯曲『喜びの琴』をめぐる、三島と杉村春子座長が対立。63年、劇団が分裂した。原因は三島の思想が大きい。当時、私は三島の行動に興味を持ち始めていた頃だ。

演劇体験

64年、安価な観賞費でプロ演劇の普及を図ろうとした「労演」(大阪労働者演劇協議会)があった。音楽好きな私は、それに先立つ「大阪労音」(大阪労働者音楽協議会)に通い、演劇部でもあるので労演にも通った。いずれの組織も労働組合や社会党・共産党系の影響下にあったが、70年代後半に活動は終息した。このころ新劇の多くは左翼的傾向にあり、労演が主催する

演目中、プロレタリア独裁をテーマに持つものや、教条主義な作品、左翼絶叫的な作品もあり、しかし、それが当時のトレンドでもあった。

ただ当時労演で見たシェークスピアの『ハムレット』(俳優座)を演じた仲代達也や、オフェリア役であった市原悦子の声の輝きは新鮮だったし、T・ウィリアムズ作『欲望』という名の電車(文学座)のプランチを演じた杉村春子の狂気は凄まじかった。小山祐士作『泰山木の木の下で』(劇団民藝)の、北林谷栄と宇野重吉ら名優の演じる原爆や、戦争の物静かな悔恨、怒りは、若い私に新鮮なメッセージを届けてくれた。

労演・労音活動の通底音には社会主義礼賛階級思想が明確で、私に芝居、音楽、知識や情報、感性を獲得させ、同時に社会へ

作家大江健三郎

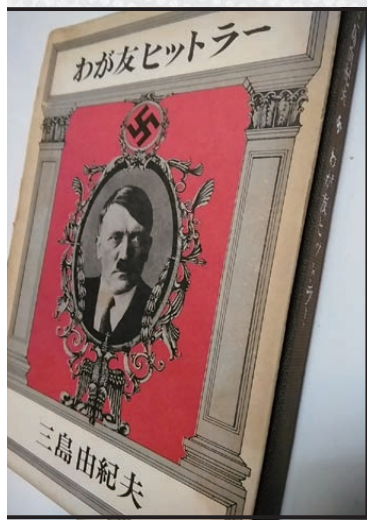
の開眼もさせた肥沃の地であり、知の源泉であったと思う。後年、左翼ではなく無翼な人間に育つていくことにはなるが。

さて三島である。まだヒタリ気分がミギ向き三島のわずかな作品にしか接していなかったものの、この作家には親近感を抱いていた。その頃私は、芥川賞をとり文壇のアイドルでもあった大江健三郎が好きで、「見るまえに跳べ」(58)『個人的な体験』(64)『万延元年のフットボール』(67)等々は、アバンギャルドに加え、われわれ等身大と思わせる主人公たちの跳躍と過激さが痛快で、しかも伝承的

とさえ思える語りが魅力であった。難解さもあるが、当時の飢えたる若者ども同様、私も大江作品を競って読んでいた。

大江から少し間を置きたしたのは彼の小説ではなく評論集からであった。『厳肅な綱渡り』(65)、『持続する志』(68)という単行本の中に違和感を覚えたのだ。それは『ヒロシマ・ノート』(65)『沖縄ノート』(70)にも言えた。それら評論集等は40数年前に廃棄し手元がないが、基本的には社会や国家、人への

首みなどへの視点がモラル然とし、正義派ともいえる良識者の目線が違和の印象だった。あれだけ文学作品がインモラルで土俗的、そして猥雑感漂い面白いかかわらず、である。正義・正論や教条主義な言質は今も嫌いで、小説はともかく、大江の評論にはそんな印象があり、徐々に大江から遠ざかることになる。(7月号に続く)



見開きデザイン構成
「三島と飯面」/hidarimaki



【田岡秀朋】連日報道でオーバーシュート・ロックダウンなどなど横文字におなな一杯。ハナレグミが「やさしさディスタンス」と言ったのに癒された〜。



【佐々木敏明】水ぬるむとはいえ重ね着する朝寒の飯喰らう子の寄る辺なきシャボン玉彩きそう子らの隣き夜桜にねぐら決まらぬ段ボール



【沖田一志】恒例行事になってる事務所の引っ越し。今年もしました。棚や金庫を運ぶ方法も、回を重ねただけあって段取りもバッチリ。今回は廊下向かい側の部屋なので4時間ほどで作業完了。

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのお気軽系コラム。

『理不尽を学んだドラクエ』

「大人になるとゲームをしなくなる」と思っていたが自宅のプレイステーション4は現役バリバリで活躍している。はじめてゲームをしたのが小学校に入学前、父親が持っていたファミリコンコンピュータの『ドラゴンクエスト4』だった気がする。あの当時は今のゲームのグラフィックでは考えられないほど、簡素なものだった。戦闘シーンになっても背景は真っ黒でモンスターのイラストも動かない。コマンドを選び、「〇〇の攻撃！ スライムに5のダメージ！」などのメッセージが流れるだけだった。しかし、なぜか当時はその世界にどっぷりとハマっていた。頭の中でモンスターと戦っている勇者などを想像しながらプレイし、全滅したくない一心で必死にレベル上げをやっていた。

思い出に残っているのが最後のボスなどではなく、起動時に呪いのような音とともに流れる「お気の毒ですが冒険の書は消えてしまいました」というメッセージ。ファミコンやスーパーファミコンでドラゴンクエストをプレイした人なら絶対に経験があると思う。要は「ゲームのデータが消えたよ。また最初からがんばってね」ということ。今までコッソツと上げてきたレベルや進めてきた冒険が一瞬にして消え去るのだから、本当にお気の毒である。「お気の毒」という言葉はこうやって身をもって覚えたものである…、あの絶望感とともに。あまりピンとこない人は何日もかけて作った資料が目の前で燃えている場面を想像してほしい。ちなみに当時セーブデータが消えた原因、第一位はオカンの掃除機である（わかる人にはわかる）。

当時はインターネットが普及しておらず、次の行き先がわからない場合は自分でどうにかするか誰かに聞くしかなかった。父親が先にクリアしていたので、よく聞いていたが「酒を飲みながらやっていたので覚えていない」とYahoo知恵袋が炎上するようなナイスな回答が返ってくる。自分が考えたとき、自分が倒れるような倒れる面白かったように思う。ゲームなんかしても何もならないという人がよくいる。確かに何にもならない。ただ趣味として考えるなら、あれほど気軽に低価格でできる



ゆうていみやおうきむこうべべべべ

ハンブレイ・T



【安田拓也】自炊して分かったこと(1)あの甘辛の味は相当量の調味料を入れないと出ない。いつも薄味になって気になるが、これが健康に向かっていると、慣れるか様子を見てみよう。



【西田吉志】新年のニュースを見たとき、これほどの緊急事態になることをどだけの人が予想できたのだろう。正直僕はできなかったし、できることは目の前で起こる対応と健康管理に気を付けることだけ。



新年度が始まりました！2020年度はGCC Kidsインターナショナルスクールの本開園ということもあり、入園式と合わせて開園式も行いました！今年度からは、スクールバスも走り出します！安全祈願のため檀原神宮でお祓いをしていただきました。

たぐの 3くふうたま

畳間

建物×暮らし＝空間

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。

引っ越しはモノの移動だけでなく、心の移動でもあるようだ。たとえば、引っ越しを機に、柄にもなく料理を始めた。ただの自炊、前の住まいにも台所はあったのにしてこなかった。それが、新居に移って立派なキッチンや調理器具、ダイニングテーブルが目の前に揃うと、ついつい食材や調味料を買い込んでいく。昔から手先を動かすのは大好きで、今は料理が楽しい。

些細なことだが日常にこんな変化をもたらしたのは、きつと「空間」が変わったから。そのことに気づくと、「建築とはなにか」という昔から抱いていた問いがふつふつと甦ってきた。建築というハードは、私たちの暮らしに大きな影響を与える。しかしそれをどのように使うのかは、住まい手の生活の仕方(ソフト)に負っている。

建物自体を変えるのは難しくても、柔軟に自分たちの暮らしを掛け合わせ、空間を変えてゆくことはできる。これから始まる新しい生活のなかで「住まい手らしさのある空間作り」を試行錯誤してゆきたい。

(安田拓也)



野菜カレーとフランスパンの白ネギ浴



【寺島史視】この数か月間、一日でもはやくコロナが収まって子どもたちと元気にまた活動できるだろう。自分にはどうあがいても無理だと悟ったんでもらえる活動を考えて準備しておこう。



【谷口円】フリーランス歴がまる5年になりました。6年目突入です。スペシャリストに憧れるけれど、自分にはどうあがいても無理だと悟ったので、ジェネラリストを極めていこうと思います。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「葉桜の葉っぱ」の巻

つぼみがついた。
 まだまだ私は睡眠中。
 つぼみがふくらんだ。
 それでも私は睡眠中。
 花が咲きはじめた。
 にぎやかな声がかすかに聞こえる。
 花が満開になった。
 にぎやかな声がうるさくて目が覚めた。
 花が散った。
 私は静かに起き上がった。
 そして私は寂しくなった桜の木を
 たくさん葉っぱでかざりました。

赤井まゆみ

葉桜のこと

葉桜(はざくら)とは、桜の花が散り若葉が出始めた頃から新緑で覆われた時期までの桜の木、またはその様を言う。

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちで皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

い湯かげん

人権のニューノーマル(新しい常識)

新型コロナウイルスは治まる心配をまったく見せないまま、いよいよ史上初の緊急事態宣言が発せられた。こんな時その先を予想するのもおぼろげだが、いつか収束したとしても世界はもう元には戻れない、戻ってはいけない、というのを「ニューノーマル(新しい常識)」と言うのだそう。小さくは日常生活、大きくは日本や世界の「ニューノーマル」について想像するのが必要だろう。ここでは人権についてあれこれ想像してみたい。

まず「人権は一触即発」ということ。ダイヤモンドプリンセス号と隔離されていた知人が「帰還」した後、最初に体験したのがスポーツジムからの出入り禁止の通告だった。

どこで情報を得たのか、知人の隔離を知ったジム会員の相当数から排除の要望があったのだそう。こんな話は枚挙にいとまがなく、後日続々と報告されるだろう。ボクは、かつてこの『湯かげん』で、人権とは遠い未来に到達する理想郷ではなく、ジーソーのように揺れ動く現実の課題ではないかと書いたが、今回の事件であらためて一触即発な人権状況を感じた。

次に「非常時の人権ということ。緊急事態宣言は新型コロナウイルス特措法に基づいており、生活が極度に制限され、人命保護のための強制隔離もなされる「劇薬」だ。ボクは、特措法は拙速ゆえに不完全だから、付帯決議で再検討を約束した方が良く

思った。非常時の人権保障には、異議申し立ての権利や人権救済機関の担保、損害補償の範囲の特定などが必要で、かつ政府や自治体などの権力機構に対する強力な抑止力がなければならぬ。しかし議論は成熟していなかった。それどころか、とくにダイヤモンドプリンセス号問題の初期対応には、権力機構に属する人の人権意識の低さも露呈したと感じた。ホステス等特定の職業の人々を給付金の対象外にするような発言にも同じことを感じた。

そして「人権はいまや地球規模」ということ。ダイヤモンドプリンセス号の乗員の大半はフィリピンの労働者だったが、かれらは無権利のまま感染の危険性の高い現場で奮闘していた。また、東京オリパラは一年後の延期開催となったが、今後想定されるアフリカ等での感染防止や撲滅後開催のビジョンは語られなかった。そもそも、最初コロナウイルス感染症は中国武漢省の風土病みたいに伝えられていたのが、次第にグローバル化のもとで成長



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

する感染症だと認識された。しかし、経済を優先するあまり、今度はアフリカ等の風土病みたいに切り捨てられはしないか心配だ。東京オリパラにはそんなプロパガンダ(感染症克服という政治宣伝の場の危惧が残る。地球上の誰かが栄えているのは、地球上の誰かが泣いているからではないかという人権の問いかけが求められる。

繰り返すが、人権問題は「一触即発の人間関係の中にこそ現れ、そうした非常時の人権に関する法整備は不完全なまま、そして「人権は地球規模のテーマである」とは、長く人権運動に係わってきた者にとってもニューノーマルだということだ。



[若松司] 若い人と話していると、誰もが知っている名作・傑作を観てないことがけっこうある。きっと上の世代もそう思ってたんだろうな。絶対おもしろいから観て、『ガンダム』とか『AKIRA』とか。



[山村裕太] 職場までの距離が3分程度になりました。通勤中に仕事の段取りを考えることがなくなりました。何事も一長一短だなと思いました。

地域の縁を心でつなぐ



心の時間

「心」は凝凝(こりこり、ころころ)から出来た言葉だそうですが、てっきり「ころころ」変わるからだと思っていました。怒ったと思ったら泣き、泣いたと思ったら笑い、「心」は「ころころ」変化します。「心ここにあらず」とは、身体は動かずとも「心」がどこかへ飛んで行く状態。同じく「下心」や「心裏腹」も、下に行ったり腹の裏に行ったり、心は「ころころ」動くものだと教えています。

反面、様々なきっかけで失ったまま「心」ない生活を送る人もいます。仏様の教えでは「心」ない人を幸せとは言えません。しかし「心」を取り戻すことで幸せになれるチャンスは誰にでも訪れます。「心」を取り戻すと、現実というよりも生き方が変わります。生き方が変われば、未来が変わります。未来が変われば、過去の出来事の意味が変わります。例えば失恋した悲しい過去も、後に出会ったすてきなパートナーと愛を育むことができれば、大切な思い出に変わります。「心」が変われば過去も変えられるのです。

松向寺 通法

ココドコ

ココはココア
おたしはゆ〜とあい
編集部が解散した
「にしなり」100景
大公開!

招き猫ポーズかと思いきや、どうも頬杖をついている様子の猫のオブジェ。目力が強いです。ココがドコだかわかった人は、ゆ〜とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします(先着10名様限り)。回答期限は5月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 西成区玉出中1丁目の小さな商店街でした！難易度が高めの問題でしたが、わかった方はいましたか？



2017年6月撮影



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび5月号(vol.159)
発行日:2020年5月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、
寺島史規、西田吉志、安田拓也、山村裕太(あいうえお順)
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

facebook



facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>